

第1回「美しい国づくり」企画会議

日時：平成19年4月3日（火）17：00～18：00

場所：総理大臣官邸2階大ホール

- 1．開会
- 2．安倍内閣総理大臣 挨拶
- 3．平山座長 挨拶
- 4．「美しい国づくり」プロジェクトについて
- 5．討議
- 6．閉会

（配付資料）

- 資料1 「美しい国づくり」企画会議の開催について
- 資料2 「美しい国づくり」企画会議 有識者名簿
- 資料3 「美しい国づくり」企画会議運営要領（案）
- 資料4 「美しい国づくり」プロジェクトについて

午後 5時02分 開会

塩崎官房長官 それでは、始めさせていただきたいと思います。

第1回の「美しい国づくり」企画会議ということでございますが、有識者の先生方には大変お忙しい中、本日のこの企画会議第1回会合にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

「美しい国づくり」プロジェクトでございますが、後ほどまた総理からそれに対する思い、あるいは世耕補佐官から若干の説明もさせていただきたいと思っておりますけれども、このプロジェクトにおいては、やはり日本がさまざまな分野で本来持っている良さとか、薫り豊かなもの、あるいは失われつつあるけれども途絶えさせてはいけないものとか、あるいはかつて美しかったけれども美しくなくなってしまったもの、それから実はその美しさにまだ気がついていないもの、さらにはこれからつくり上げていかなければいけない美しさ等々いろいろあると思います。いずれにしても押しつけではなくて、国民一人ひとりが足元を見つめ直し、自覚・共感して、それぞれがそれぞれの思いに従って行動することを促すような取り組みを目指したい、と考えさせていただいたものでございます。いわば「美しい国づくり」を身近な視点でプロデュースし、国民一人ひとりが美しい日本づくり、美しい自分探しの旅に出てみようと、そのようなものではないかと考えております。

そのため、文化、芸能、歴史、産業などそれぞれの分野の第一線で御活躍の先生方をお願いをいたしまして、いわば日々日本らしさに磨きをかけて自ら体現されている皆様方から、当会議にひとつ御貢献をいただきたいということでお願いをしたところでございます。

そういうことで、ぜひそれぞれの御経験に基づくお考えなど、遠慮なく御披瀝をいただきまして、当会議の企画審議をよろしくお願い申し上げたいと思います。

この会議の座長は、平山郁夫先生に、そして座長代理は山内先生をお願いをすることで御快諾をいただいているところでございますので、よろしくをお願いをいたしたいと思っております。

それでは、安倍総理から御挨拶申し上げたいと思います。

安倍内閣総理大臣 皆さん本日はそれぞれ大変お忙しい中、この「美しい国づくり」企画会議第1回目の会合にお集まりいただき、厚く御礼を申し上げます。

私は、内閣の発足以来、「美しい国」をつくるということを内閣の基本的な方針、目標として掲げてきました。ちょうど折しも今、桜の満開を迎えておりますが、このホールも桜のじゅうたんであり、やはり桜も一つの日本の美しさの象徴ではないかと思っております。

本居宣長も「しき嶋のやまごころを人とはば朝日ににほふ山ざくら花」と詠んでいるわけ

ですが、先般も来日されたキッシンジャー元国務長官にお目にかかったときに、彼は「日本には何回も来ているけれども、この桜の時期に来たのは初めてだ」とおっしゃいました。「ワシントンでは常に桜の花の満開を楽しみにしている」とのことで、ワシントンの桜の花はまさに日本のイメージとともに、米国人からも愛されていたということではないかと思います。この桜だけではなくて、日本中の至るところに日本の美しさは満ち溢れていると思います。

かつて日本を訪れた多くの外国人は、日本人の礼儀正しさ、謙虚さに心を打たれています。こうしたお互いのお互いへの思いやる心、あるいは謙虚な礼儀正しさ、そして共生していくことについて、日本人はその共生、協調を大変重んじており、言わば日本の美德、美しい振る舞いといったものを我々はやはりもう一度見つめ直していく必要があるのではないかと思います。また近年それが失われてしまっているという声もあります。

また、新たな日本の素晴らしい価値も生れており、アジアにおいてはいわゆる J - P O P S、また日本のファッションが新しい日本の美しさ、強さ、日本らしさとして受け入れられてもいます。日本人が古来持っている美しさ、またもともと存在する素晴らしさ、美しさ、そしてまた生れつつある新たな日本の素晴らしさについて、ぜひ我々ももう一度よく認識をしながら、これを内外に向けて発信していく必要もあるのではないかと思います。

私は、就任の際の演説で、私の美しい日本の姿についてお話しましたが、わかりにくいというご指摘もいただきました。これは、まず私の考え方を述べさせていただいたものです。本来、国がそれを定義づけるのではなくて、国民の皆様方一人一人が、日本の美しさ、また日本人の美しさは何かということ問い直していただき、守るべきものは守っていく、継承していくものは継承していくということが大切ではないかと思います。

こうして各界で活躍をされておられる有識者の皆様方にお集まりをいただき、皆様方のご議論をさらに国民の中に広めていくことが大切であろうと思います。そして、行動、実践していくことも重要ではないかと思いますので、国民的な運動にもつなげていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

塩崎官房長官 ありがとうございます。

有識者の皆様方の御紹介は、お手元に名簿というのを配ってありますので、これで代えさせていただきます。

それでは、これからの議事進行は座長をお務めいただきます平山先生にお願いいたします。

平山郁夫座長 ただいま官房長官の御発言のように、「美しい国づくり」の座長を務めさせ

ていただきます。どうぞよろしくお願いいいたします。

本日、お集まりの識者のいずれの方々も、各界を代表される第一人者とも言える人たちで、また御活躍されている方々であります。当会議では、さまざまな視点から忌憚のない議論が展開されるように願っております。

安倍総理の目指す「美しい国、日本」を実現するために、実りのある成果が上がるよう、座長としては最大限の努力をしたいと思っております。

こうしたことで皆様方の御理解と御協力をいただきたいとお願いいいたします。

なお、当会議につきましては、配付資料の「美しい国づくり」企画会議運営要領（案）にあるように、原則公開としますが、意見交換の部分につきましては非公開とし、毎回会議の終了後に、世耕総理補佐官より本日の当会議の内容につきましてブリーフィングを行うことにいたしますので、後日、議事録要旨を作成して公開いたしますので、よろしくお願いいいたします。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

原案のとおり、配付資料3、「美しい国づくり」企画会議運営要領を決定いたします。

それでは、会議を進めます。

まず、当会議の役割等につきまして、世耕総理補佐官から御説明いただきたいと思えます。

世耕総理補佐官 御指名いただきました総理補佐官を務めております世耕弘成でございます。

それでは、「美しい国づくり」プロジェクトと大きく書いております資料4に基づきまして御説明をさせていただきたいと思えます。

表紙をめくっていただきまして、まず本プロジェクトの原点でございますが、これは安倍総理の就任直後に行われた所信表明演説、また今年、国会冒頭で行われました施政方針演説に明確に述べられていると考えております。

所信表明演説では、安倍総理は、特に日本を世界の人々が憧れと尊敬を抱き、子どもたちの世代が自信と誇りを持てる「美しい国、日本」とするということが高らかにうたわれております。

また、今年1月26日に行われました施政方針演説では、下のブロックになりますけれども、「美しい国、日本」を創っていくためには、我が国の良さ、素晴らしさを再認識することが必要です。そして、未来に向けた新しい日本の「カントリー・アイデンティティ」、すなわち我が国の理念、目指すべき方向、日本らしさについて、我が国に叡智を集め、日本のみではなく、世界中に分かりやすく理解されるよう、戦略的に内外に発信する新たなプロジェクトを立ち上

げる、まさにこれが本日お集まりいただいている「美しい国づくり」プロジェクトそのものであると考えます。

次のページをめくっていただきまして、また総理はこの所信表明演説の中で、この国の理念、目指すべき方向として4つの柱を述べられています。

まず1つ目が、文化、伝統、自然、歴史を大切にする国。そして2つ目が、自由な社会を基本とし、規律を知る、凜とした国。そして3つ目が、未来へ向かって成長するエネルギーを持ち続ける国。そして4つ目が、世界に信頼され、尊敬され、愛されるリーダーシップのある国。これは、総理が「美しい国」の4つをさらに具体化した柱という形で御説明になっている内容でございます。

次のページをめくっていただきまして、それではこの「美しい国づくり」プロジェクト、今日発足したプロジェクトは何かということですが、総理が明確に述べられた今の4つの柱を意識しながら、有識者の先生方にいろいろ御議論をいただいて、途絶えてはいけないもの、失われつつあるもの、あるいはこれから培っていくべき美しいものを踏まえながら、私たち日本人一人ひとりの中にある豊かな未来につなげようとする活力の源と言える日本に対する思い、この国民の思いを引き出していくことにあるのではないかと考えております。

そして、日本に対する思いを通じて、国民一人ひとりが日本人ならではの感性、知恵、工夫、そして行動を自覚するきっかけをつくっていくことではないかと考えます。“日本らしさ”を毎日の生活や日々の仕事を通じて磨き上げていくことで、生き生きとした豊かな国としての成長につなげていくことになるのではないかと。加えてこうした国の姿や国民の行動を、胸を張って堂々と世界に発信をしていくことになるのではないかと。そして、そこで得られた理解や共感、世界から認められ、愛され、信頼されることにつながり、そのことがまた私たち日本人自身の誇りや自覚を促して、この国の未来を確固たるものにつなげていくのではないかと考えております。

次に、めくっていただきまして、このプロジェクト、を構造として絵で示させていただきます。

左上の、私たち自身を見つめ直す、「“日本らしさ”の再認識・再確認」、これはまさに「思う」ということでございます。そして、その次に身近なものとして国民自身が参加していく、「参加・自覚の促進」、これは「気づき」ということにつながっていくと思います。そして、次の段階で思い、気づきを共有していく、「共感・感動の波及」、それによって国民自身の「意欲が高まっていく」。そして、さらに今度はそれに基づいて「自発的な行動触発」、こ

れはまさに「磨きをかける」ということになっていくと思います。また、政府としても、有識者の皆さんの議論の中で日本自身を磨いていく必要のある部分で具体的な政策ということも出てくるかと思います。

そして、その磨いた結果を対外的に発信をしていく、世界から「共感と信頼の獲得」につなげていく。もちろんそのときは日本人自身が「自覚をする」ということも重要だと思います。そして、対外発信をした中で、当然世界からいろいろな評価がはね返ってくるわけですから、また新たに「自分たち自身を見直す」ことにつながっていく。まさに、この円がスパイラル的に繰り返されていくことで日本人自身が自分自身を磨いて高めていくことにもつながるのではないか、これがこのプロジェクトの構造だと思っております。

次をめぐっていただきまして、それではこの「美しい国づくり」企画会議、具体的にどういう役割を果たしていただきたいと考えているかということでございます。

「美しい国づくり」プロジェクトを推進するために必要な企画について、この会議で審議をしていただきたいと考えております。具体的には日本の良さ・素晴らしさの見つめ直し・再確認につながることで、途絶えてはいけないもの、失ってしまったものを含めて“日本らしさ” “日本ならではの”を掘り起こしていただくということがまず第1でございます。

第2に、身近な“私たち視点”で参加できる国民にとっての企画を考えていただく。身近さを通じて、一人ひとりの思いを引き出すような推進施策を考えていただくということでございます。

3つ目は、“私たち視点”で共感・感動する広報展開でございます。日本人皆が知り、分かち合う意識、自覚と行動の広がりを進めていくということでございます。

4つ目が、この“私たちの日本”を世界に発信をしていくということでございます。世界に通用する共感を得られるものを堂々と発信をしていく、こういう4つの役割を企画会議の先生方にぜひお願いをしたいと思っております。

最後のページでございますが、それではこの具体的企画を進めていくに当たっての考え方でございます。特に、“私たち”目線でのコミュニケーション、皆と同じ目線でともに思いをめぐらせ、歩み、築くという姿勢が重要だと考えております。

大きく3つにまとめておりますが、あらゆる世代の国民の気づきを促す企画が重要だと思っております。日本の「薫り豊かな」ものや途絶えてはいけないもの、かつては美しかったが美しくなくなってしまったものを見つめ直して、あらゆる世代の国民が日本の「良さ、素晴らしさ」に気がつくことでございます。

2つ目は、身近な視点での取り組みを推進する企画でございます。国民一人ひとりがいわば「美しい日本づくり、美しい自分探しへの旅」を始め、その思いをきっかけに自らが行動するような身近な視点での取り組みを推進すること。その結果、描き出されたものを「美しい国、日本」として皆で共有し自覚し合うこと、これがまさにカントリー・アイデンティティということになるかと思えます。

3つ目でございますが、世界とも分かりあえ、共感しあうための企画。“諸外国の国民とも理解し合い、認め合う”という視点で、私たちの姿や行動を堂々と発信をしていくということが重要だと思えます。

以上がこの「美しい国づくり」プロジェクトに関する考え方、あるいは我々が先生方をお願いしたいという役割等についての御説明です。

平山郁夫座長 それでは、具体的な企画案があればお示しいただきたいと思えます。

世耕総理補佐官 これからのこの企画会議の先生方にいろいろと企画を考えていただくわけでございます。今日は第1回ということもございまして、我々の方からない知恵を絞り出しまして、たたき台となるような企画候補、これは全く我々が勝手に考えたことございまして、ぜひとも今日、先生方にしっかりともんでいただきたいと思えます。

4つほど考えさせていただきました。

まず、当面の企画候補1。すぐにでも実行に移せるのではないかと考えている企画は、まず2つでございます。1つ目は、「美しい日本の粹(すい)」。これは粹(いき)という言葉でもありますが、あえて粹(すい)という呼び方をさせていただきます。この「美しい日本の粹」という企画は、具体的には日本の文化、伝統、自然、歴史、規律など、さまざまな分野において、私たち日本人が本来持っている良さや途絶えてはいけないうもの、あるいは世界に通ずる普遍性を有するものなど、未来永劫に大事にしていきたいものを、私たち一人ひとりが思い、見つけ出し、そして応募し、共感し、それを伝えていく。それぞれ1億2,000万人が感じている日本の美しさに関して、それぞれの国民から公募をして、私はこういうところがいいと思うというのを応募をしてもらおう企画を行ってはどうかというのが、この1つ目の企画でございます。

2つ目の企画は、「あなた発、美しい日本コンクール」。これはかなり分かりやすい表現になってはいますが、具体的には、私たちがこれこそ皆さんに伝えたい「美しい国、日本」だと思えるものを、例えば絵ですとか、写真といった形で表現をして、これも応募をもらって、そしてそれをまた何らかの形で、皆はこんなふうに思っているよというものを展示会のような

形で全国展開をしていったらどうだろうか。写真と言っても、今は日本人全員がカメラ付の携帯電話を持って歩いているものですから、そういうので撮ってもらう。それも必ずしも風景だけではなくて、例えば額に汗して働く姿だとか、あるいは助け合っている姿とか、そういった写真も気軽に今インターネットで提案ができますので、そういったものを集めてみるというものもどうだろうかと考えております。

そして、これはもう少し次の段階で考えていただいてはどうかという企画でございますが、3つ目が、「世界に貢献した日本人、記憶に残しておきたい私たちの先人たち」。必ずしも有名だとか小説になっているわけではないんですけれども、世界の人に代表的な日本人として発信していったらいいのではないかというような人たちを、国民に問うてみたらどうかと考えています。

4つ目が、「世界に貢献する私たちの創意工夫、そして知恵」。日本はいろいろな知恵と持ち味を生かして、例えば世界における災害対策とか環境や民生の向上といった形のODAをたくさん行ってあります。協力プロジェクトをたくさん行ってあります。こういうものを国民にまず紹介をして、理解をしてもらうというような企画も考えたらどうだろうかと考えておりまして、この辺についても、先生方から御指導いただければと考えております。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

それでは、安倍総理は所用のためこれから退席されます。どうもありがとうございました。

安倍内閣総理大臣 どうぞよろしくお願いいたします。

平山郁夫座長 それでは、ただいまより討議に入りますが、本日は第1回目ということで、順次に有識者の皆様方から、時間は短いんですが3分間だけ、それぞれの専門分野におけるこれまで築き上げられた経験を3分間だけお話しいただきたいと思います。

議論の進め方は、日々、日本らしさを探求し、磨きをかけ、体現された皆様から、今申し上げたような御意見をいただきたいと思います。これから美しいものをつくり上げていくにはどうしたらいいのか、議論をいただくことにいたします。そして、国民に広く「美しい国」についての考え、方法を御提言いただきたいと思います。また、本プロジェクトは幅の広い国民の皆さんの御参加をお願いしたいと思っていますので、私たち自身が参加することを含めて、積極的な御協力をいただきたいと思います。

ただいま総理補佐官や総理がおっしゃったことは、私たちも絵をずっと、美しき日本の心を描くように何十年もやってまいりました。また、そういうことを各分野でおやりになっていると思いますが、これは日本人が「美しい国」の外へ行った場合には、大きなアイデンティティ

につながっていきます。いろいろな立場で日本人が日本の文化の特質は何であるかというのを質問されたとき、なかなか一言で答えられない、相当高等教育を受けた方でも難しいということと言われておりますが、ぜひこれを分かりやすく国民の皆さんにお願いを広くいただきたいと思えます。

後はあいうえお順に御発言いただきますが、最初に山内座長代理からお願いしたいと思えます。

山内昌之座長代理 「美しい国、日本」というのは、自然現象の面から見ますと、申すまでもなく山と森と水の共存、あるいは静かさや華やかさの共存、こうしたことはすぐ思い浮かぶわけでございます。限られた時間ですので、これらについては、もっと適切に御発言いただくメンバーの方々にお任せいたすことにいたします。私は、専門にかかわるようなことで、今回のこの企画会議の役割の中でも、世界に通用する、そして世界から共感を得られるメッセージを堂々と発信するという点を重視したいと思えます。

企画推進における留意点といたしまして、私としては内向きだけの発信にならない、あくまでも世界に堂々と発信するという点、この点を排他的かつ自己中心的でない形でいかに工夫するかという点が大事ではないかと考えています。

さまざまな形で昨今、日本と世界とのかかわり、特に近隣諸国との関係で幾つか歴史認識の問題などが問題になりますが、私は世界と外国を見る場合に、日本の歴史教科書は、各国に類を見ない客観的な見方、そして歴史の理解と認識においてすこぶる公平であると全体として考えています。世界と日本の歴史を非常にフェアな観点で見ているということは、外国と比べても確認できるのではないかとと思えます。

東洋と西洋の古典や名作というものをこれほど幅広く翻訳している国はありませんし、外国理解の基本としまして、日本はいい意味での極めて良質な翻訳大国であるという特徴を持っております。私は、あえて申しますと、一種の隠れた「世界共通語」としての日本語、日本語の力についてもう少し自信を持つべきではないかと信じております。世界の多様な文化を支える一つの重要な文化として日本文化がありますが、かつて中国の知識人自身が日本語に訳されたもの、あるいは日本語で書かれたものを通して欧米の知識や科学、日本語訳の西洋古典を通して、近代科学技術や世界文学を吸収したような歴史がありました。

現在、我々は、日本語に訳されたアラビア語やラテン語やサンスクリットを始めとした文化遺産を学べる環境にあります。そうした装置を持っている点で、かほどの例というのは世界の各国にもないのではないかと思っています。私は、常日頃、留学生にも語るわけですが、日本

語を学ばばある意味で古今東西の世界文化に接する手段が得られるメリットがあると、こういう点などをこれからも強調していきたいと思っています。したがって、純粋和語や漢文を交えた日本語に関する知識がないと、英語によって日本を説明するという力の基礎も弱くなり国際水準にも追いつかない浅薄な英語必須論にもなりかねないことも危惧するわけです。

そこで、私は当面企画候補の中での「世界に貢献する私たちの創意工夫、そして知恵」といったような点では、このような一種の世界公用語という、隠れた世界共通語としての日本語というものについて、あまり自己過信に陥らずに知られざる日本語の汎用性についても、「美しい国づくり」の中で発信してもよろしいのではないかと、考えている次第です。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

それでは、あいうえお順に石井さんからお願いいたします。

石井幹子氏 照明デザインをしております石井幹子と申します。

私は、昼の景観を何とか光で夜美しくするということを何十年とやっけてまいりましたけれども、なかなか昼の景観が美しくないとこを夜だけ美しくするというのは難しく、大変苦勞してきたわけでございます。

また、光文化フォーラムという学際的、業際的に光を文化として研究する、そういった団体をつくりまして、その代表といたしまして日本の光文化というのが非常に多岐にわたって、しかも歴史もあり素晴らしいものがあると。それを全国から発掘して、そして継承していこうといったような運動もしてまいりました。

また、近年はこの2年ほどですけれども、美しい景観をつくる会というのを発足させまして、土木、都市計画、それから造園であるとか景観、いろいろな分野の方たちと美しい日本の景観をつくらうというような運動をしております。

今回のこの企画会議会、お招きいただきまして、大変光榮に存じておりますし、またこの当面の企画候補というものも非常にユニークな、今まで取り上げたことがないものであるというように思って拝見いたしました。ただ、できればもっと日本を知る、日本を知らせるということ、これはむしろ外国人に対してということもさることながら、日本人が日本を知らないということが非常に大きいというように思っております、これを多角的にぜひ取り上げていただければと思います。

また、あわせて実際に日本は本当に素晴らしいものがたくさんあるのですが、ただ目で見える日本というのは今非常に醜い。私は、新幹線の東京から新大阪へ行くまでに、富士山側の車窓を3分おきにシャッターを切って、ずっと写真を撮ってみました。その中で、美しい日本の

景観というのはたった1カ所、関ヶ原のあたりで1カットでございまして、人の手が入ったところは全部醜いんですね。かつては、欧米と比べてということをお私達は非常に言ってきたんですが、今や欧米どころか近隣アジア諸国に比べても日本は非常に景観が汚いのです。これは、北京にしる、上海、それからソウル、シンガポール、みんな空港を降りてから街までは、並木があり、道路は立派で素晴らしいんですが、一方、我が日本はどうだろうかという、いま美しいどころか大変醜いわけですね。

殊に、いま人の心をすさませているものとして、荒れた休耕田であるとかには、私はぜひこの際ももっとこういったメンタルなことだけではなくて、ぜひちょっとした工夫で日本が美しくなるということもこの運動の中に取り入れていただきたいと思います。休耕田にお花の種を支給するとか、それからいつも乗り物に乗るたびにがっかりしますが、美しい田園風景の中にある野立ち看板、それから都市に近づいてきますと塔屋の看板、要するに看板類が放置されているといったこれも本当に人の心をすさませるものであると思いますので、それをただ外観的な景観の問題というふうに片付けしないで、そういったものを何とか一人ひとりの努力だけでなく、こういった官邸主導の会議でいっちゃいますから、大変影響力がおりになると思いますので、ぜひここからそういうことを発信して、物心ともに「美しい日本」を取り戻すということをおぜひやっていたきたいと思います。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

続いて、井上さん、お願いします。

井上八千代氏 京舞井上流の井上八千代でございます。日本舞踊の中でも大変特殊と言われます上方舞の中で、さらに京都のみで育ちました京舞に私は携わっております。

京都から参りましたもので、今、石井先生のおっしゃった景観のことについて、まず何より私も心を痛めておりますことでございます。私たちの世代で京都の景観というものをどのようにすべきか、景観の問題は保全、再生、さらに新たな創造というようなことがなければ後につながらなくて、生きている街というものにならないということ、遺産になってしまわないあり方というものを、京都の街というものをバックボーンにいたしております私たちですから、常に考えてはおりますが、なかなかそういうことが具体化されません。

おっしゃいましたように、この20年ほどで京都は瓦屋根の美しさみたいなものがすっかりなくなりまして、平山先生やらは特によく御承知やと思いますが、私たちが住んで、暮らして、生きている中で、その美観を保つにはどうすればいいのか。それにはやはり美しいものを感じる心、美しい国をつくるのは人であるということをお当たり前のことですが、やはり今一番考え

なければならぬと思っております。

私たちは、舞踊に携わるものですから、日常の立ち居振る舞いなども多少は気をつけておりますが、そういったことが日本の中の着物を着る、着ないということになしに、もともとあった生活様式みたいなものを、やはり今の間に子どもたちに知ってほしいと。畳の上での生活、廊下を歩くこと、障子があるお家、襖があるということ、それは今必ずしも皆にできることではございませんが、そういう生活もあるということをおぼろげに思い出すことはいいことではないか、また今でないとできないのではないかというふうに思っております。

それから、舞踊や芸能全般に関して、自分の仕事に近づけて考えますと、私たち芸能者というものは、やはり何らかの形で生きている証を形にするということが使命であると考えておりますが、そういった意味でお客様の養成といいますか、子どもたちに鑑賞する習慣をつくってほしいということを考えております。そういうことはやはり表現であるとか、美しいものを感じる心、また美しいものを大切にしようということにつながるのではないかと思います。日本古来の劇場空間という宇宙に大きなもの、小に大を移すと申しましょうか、そういう美しさのつくり方みたいなものが日本人の中にはあったように思うんですけれども、私たちは形があつてないようなものに携わっており、形あるものに拠り所を求めたいということがありますだけに、京都の街の美観については、京都がある意味で日本の国のあり方のモデルになればいいかなというようなことも考えながら新幹線に乗ってまいりました。

「美しい日本」、一言で申せば簡単ですが、さまざまな人の思いが一つになること、それも大切なのではないかと思います。私たちは、目を見て人に話すということをおぼろげなときから教わったように思いますが、今そういう伝達方法と違うことの方が多うございます。そんな中で、人と共に生きているということをおぼろげに振り返ることが「美しい日本」のあり方にもつながるように思います。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

なかなかおっしゃることがいっぱいありますので、だんだん詰まってくるので、すみません、御専門の一言ということをお願いします。

岡田さん、どうぞ。

岡田裕介氏 映画を作っております会社の岡田と申します。

私は、個人的な話とか主観を述べる前に、一つの提案としまして、「美しい国」という言葉が、やはり正直なことを申しまして曖昧模糊としていて、皆さんの中での定義がそれぞれ違うように思います。私が独断と偏見の定義を考えさせていただいて、ほかにもあれば、やって、

おまえのは違うよということならば言うていただいて、そこを直していくところからこの議論を始めたいと思うんですけども、私は基本的に考えました一つは、自信が基本的にないと思うんですよ、日本人というのは。一体どこが良さで、どこが悪いのか、自分たちでもよく分からない。これを討議するのが今回のあれなんでしょうけれども、自信があるもの、つまり外国からお客さんが来たときに見せるもの、そればかりではなくて、風光明媚なものばかりではなくて、抽象的なものでも私は「美しい国」という定義に入るのではないかと。だから、いわゆる自分たちで自信を持てるものというのは一体何か。これは、なぜこういうことを感じるかというのは、また後日に話すとして、そういうことを考えております。

それと、やはり私は命を大切にす国というのも一つの「美しい国」に値するのではないかと思うんですね。例えば、病気をされている方を救う、それも「美しい国」の一つであるべきではないかと。何も風景ばかりの問題ではない。

それから、私が見ていまして食の文化、京都なんか特にすごいところがありますけれども、端的に言いますとお寿司なんか、逆に言ったら我々が誇れる、自信を持てるものとして、私は専門家でもありませんけれども、そういうものが一体何かということを作っていくことではないかと。

それと、最近の経済を見ていましたとき、虚業がすごく多くて、私は基本的に実学、ものをつくる国であるべきではないかと思うんです。これは農業にしましても何でも、いわゆる株式の差益で儲けるとかそういうことではなくて、基本的に我々は原点に帰るということで、それぞれの分野でものをつくっていく、それぞれ製造していくという、そういうところにも「美しい国」というのはあるのではないかという具合に考えております。

ですから、私はそういう観点から話したいんですが、これは座長を含めて基本的にそうじゃないんだ、要するにある風景に絞るんだ、この部分に絞るんだということならまた考え方を考えさせていただきます。

私は、敬語の問題一つとりましても、大変このことは言えると思うんですね。日本の今の若者に、教育の中で敬語が非常に欠けている。今、なぜこういうことが起こってくるかという、敬語という問題を、私は日本語の自信を持てる素晴らしい言葉のようにも思っている人間なんです。けれども、そういうものをやることによって、今の犯罪を含めて間接ながら防いでいける、人を敬うという心、謙譲の心、そういうものをやっていく。

論点がばらばらになりましたけれども、そういうものも私は「美しい国」ではないかという具合に考えているわけです。ですから、それは提案として今日はさせていただきたいと思いま

す。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

「美しい国」の一つとして、今発言されたことはすべて当たっているのではないのでしょうか。各分野でそれがそれぞれの思いを持っていると思います。

では、次に荻野さん、お願いします。

荻野アンナ氏 タクシーに乗って行き先を告げただけで、日本語お上手ですねと褒められる荻野アンナでございます。日本生まれの日本育ちなんでございますが、この年で褒められるというのは少ないんですけども、嬉しいですね。

さっきメディアの方に写真をこの場で撮られましたけれども、こういう顔が一つまじっているということ自体、面白いんじゃないかと。さらに、このプロジェクトに参加させていただいたというのは、このプロジェクトの安定感ではなくて、むしろ危うさに面白さを感じたわけでございます。つまり、これだけ多様な有識者の方々が集まって、それが多様性の表現になるか、ばらばらということになるのか。

さらに、先ほど山内先生が、和語とか日本語の世界語たり得る可能性についてお話になりましたが、実はこのプロジェクトの中に、例えばプロジェクトエネルギー等、外来語が入っているわけですが、ちょっと長い外来語というのは危ういですね。「カントリー・アイデンティティ」、ナショナル・アイデンティティにした途端にもっと危うくなったりいたしますけれども。さらに「愛される、リーダーシップのある国」、「リーダーシップ」という言葉自体大変に危ういですが、ただ、そこで一つのパラドックスを御提唱したいんです。岡田さんが先ほど自信がないとおっしゃいましたが、私は素晴らしいことでもあると思うんです。というのは、首相がおっしゃっていましたが、大変に遠慮をする。「つまらないものですが」なんて言いながらプレゼントを渡す国というのは日本しかないわけで、「すみません」とか「どうも」と引いていく。ですから、私、この顔ですけどもソルボンヌに留学中、日本人だというのがすぐばれたんです。というのは、遅刻したときに「どうも、どうも」と「すみません」のときの林家三平の格好をしながら教室に入っていく。これは所作で分かってしまうわけで、別の日本研究家のアメリカ人の方にお会いしたときに、「はい、はい」と言いながら「はい」と引いていくんですね。そのときに、この方は本物だなと思いました。つまり、これだけ高い文化がありながら、押し出しの文化ではなく引きの文化というのは日本が世界に誇れると思います。

それは、エスティック、美的な問題であると同時に倫理の問題でもあって、遠慮ですね。遠慮という言葉は総理もお使いになりましたが、CO₂を出すのを遠慮する。そういう引きの

心というのは、今世界に発信するべきものだと思います。

あと、長くなりますのでと言いつつ、3分間というちょうどウルトラマンが一働きできる、インスタントラーメンが食べられる時間です。もうちょっとつけ加えますと、美の定義が難しいというお話が出まして、ただそこにいるいろいろな定義がばらばらではなく多様性として実れば、そしてなるべく広く御提唱できれば。

そこで、私が最近美しいと思ったものを一つだけ述べさせていただきます。東海村で核融合の実験現場を見させていただきまして、JT-60という小さな太陽を、ドーナツ型をした鉄なんですけれども、見せていただき、そのとき美しいと思ったものがありまして、それは庭に飾られていたJT-60の容器の断面をオブジェのように飾ってあったものなんです。そこには鉄のボルトが閉められているんですが、これは水圧によって閉めるらしいんですね。その特殊技術というのは本当に日本の中小企業が世界に誇れるものだそうで、それが実用に徹していることによって、逆に非常に美しく、まるで美術館の中の芸術作品のような印象を受けました。アートというのは技術でもあり、芸術でもあるわけで、そういう意味で先ほどの岡田さんのものづくりの国という意味でも、例えば中小企業の技術のようなものも十分この企画の中に入っていくのではないかと思います。

これは不肖荻野の個人の意見というよりは日本の伝統でして、例えば坂口安吾は作家でありながら、「美しく見せるための1行があってはならない。美しいということは必要であり、やむべからざる実質だ。」というふうに述べております。そういう意味で、大変に危うさも感じつつ、うまくいけばお祭りに全国的に国民が参加する政(まつりごと)、お祭りである政になり得るんじゃないかと。そういう大切な瞬間、それこそ美しさ、美に関するプロジェクトですので、「To be or not to be」のこの審議会に参加させていただいて、ありがたいことと思っております。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

それでは、次に川勝さん、お願いします。

川勝平太氏 総理、官房長官、内閣補佐官は、いずれも「上から押しつけない」と言われました。「美しい」というのは主観ですから、押し付ければ、無理が生じます。何を美しいとするかは主観ですから、人によって異なるのは当たりまえです。ばらばらになるとも言えますが、それは多様になるということでもあります。日本が多様になるのをおそれるべきではありません。企画の柱は「国づくり」という観点から行うのですから、国の姿に留意して考えるべきだと思います。国づくりについては、これまで欧米というモデルがありました。しかし、その時

代は終わりました。これからは日本がみずからの文化的価値を掘り起こして魅力ある国づくりをするのが課題です。国土の多様性をつくりあげているのは地域の多様性です。亜寒帯の利尻島・礼文島と亜熱帯の石垣島では魅力の中身が違います。日本は異なる生態系の宝庫であり、地域ごとに異なる魅力があり、その多様性を各地域が認識し合うということが大切です。それゆえ、自分の住む地域の魅力の発見がなによりも大切です。

大きな枠組みでいえば、「科学技術を軸にした強い国づくり」に加えて「文化芸術を軸にした美しい国づくり」を添える。科学技術は普遍性をもちますが、文化は個別性を持ち、地域ごとに異なります。科学技術の普遍性に立った国づくりに地域の多様さを合わせることが課題です。日本全体を視野にいれた「粹」とか「美しい日本」写真コンクールもさることながら、むしろ、地域の独自色に基づいた「ふるさと発見」の競争をうながし、ふるさと発見を奨励するのが望ましいと思います。地域の個別性は生活を抜きには考えられません。生活の基礎には一人ひとりライフスタイルがあり、ライフスタイルすなわち暮らしの立て方の中に美しさを発見する、言いかえると生活に芸術性がある、そういう生活文化を表彰していくことが大事でしょう。

それが、総理の繰り返し強調される「地方の活性化なくして、国の活性化なし」という理念にかなうこととなります。中央集権的な上からの国づくりをから、地域分権的な国づくりをするということです。日本の美しさの条件は地域が多様なことであり、多様な地域からなる国が美しいのだと思います。美しいという価値の反対は醜いことです。醜いこととは破壊することであり、戦争はその最たるものです。醜い戦争をする国づくりとは対極にある平和な国づくりをするために「美しい国づくり」をするのだという流れで理解するべきです。戦前は軍事力に、戦後は経済力に力点をおく「強い国づくり」をしてきましたが、それは国力を外に向かわせることでしたが、これからは文化力に力点をおく「美しい国づくり」であり、文化力とは内にある魅力の発見に支えられますので、ベクトルの向きが逆です。日本のフロンティアは日本の中にあるということです。美しい国づくりは、みずからの生活の足元を改めて見直し、そこにある良さに気づく、それが国民運動になるのが理想です。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

次に、庄山さん。

庄山悦彦氏 産業界的な発想では、このところいわゆる少子高齢化の問題による労働人口の減少や、BRICsの台頭による国際競争力への懸念、あるいは次世代の人材を担う青少年の理系離れや学習離れなどいろいろ議論がされているところではありますが、私は今後も活気あふ

れる国であり続けるためには、先ほどから出ておりますけれども、日本の強みを再認識した上で、新しい国家ビジョンをつくるべきであると思います。

日本の強みというのは非常に熱心で、かつ勤勉な人間集団であること、あるいは、チームワークの良い国民性であるとか、あるいはもともと資源のない国ですので、科学技術を大切にしていって、執念を持ってやり遂げる姿勢であると考えています。一方、私どもメーカーから見ますと、生活者皆さんがお客様として非常に厳しい目を持った形でいろいろ評価をいただく、これが日本人の素晴らしさだと思っております。日本人は世界最高のユーザーであるとともに、いろいろな意味での評価をされる。厳しい評価をいただくことが結果として、例えば今の自動車産業、あるいはデジタルメディア機器、あるいは精密機器というのは世界に誇れるものだと思うのですが、これは先程述べました日本の厳格なユーザーのお陰で我々産業界が育ってきたと思っております。

また、こういう性能面あるいは操作性の面に加えて、例えば環境や、省エネの分野ではやはり日本人であるからこそこれだけ加速してできたのではないかと感じており、こういうことを世界に広く訴えていくべきではないかと思っております。

また一方、最近でこそ企業のCSR、コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティの重要性が言われておりますが、私どもの会社もそうですが、大抵の会社というのは株主の皆様だけでなく地域社会、国、そして世界のために事業を行っているわけでありまして、企業のCSRというのは、単に海外の仕組みを真似するだけではなくて、日本はもっと自信を持っているいろいろなステークホルダーを大切にす企業という物の考え方、こういうことは世界に誇れることではないかと思っております。

そういう意味で、幾つか進めていく中で、一つ目は付加価値の高い経営を実現する経営革新、これは最近イノベーションという言葉がよく言われておりますが、これをグローバルにリードしていくような国。2番目は国民一人ひとりが豊かさを追求していくということ。このためには、豊かな生活ということは成長力の強化、維持が実現されること。3番目には国際貢献、国としての発言力を高めることが非常に重要ではないかと思っております。

今回のような国民運動でこれらを加速するために、どちらかというと、日頃あまり日の当たらなかった地道な活動をしている人々を讃えるような表彰制度、こういうようなこともぜひ工夫していければと思っております。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

では、次に田中さん、お願いします。

田中直毅氏 庄山さんが言われた話をそのまま続けるような形になります。工業的優美、美しさというものを追求する中で、新しい時代の日本発のメッセージをつくるべきではないかと私は思っております。

現在、世界的に見て、地球温暖化についての関心が飛躍的に高まっております。温暖化というのは、相当先の話ですが、ただ温暖化ガスが増えると、これまで優しかった気象が非常に激しいものになるというのがどうも事実のようであります。シベリアがハワイになることではなくて、我々が住んでいる気象が非常に我々にとって厳しいものになる。それを制御するためには、温暖化ガスを相当の勢いで封じ込めていく必要があるというところに焦点が当たろうとしております。

来年の日本での先進国首脳会議では、このテーマがサミットのメンバーによっても議論されるようでありますので、この「美しい国」というテーマをただ単に日本列島に限らず、地球規模で議論することの重要性ではないかと思えます。

この地球温暖化ガスについては、例えばヨーロッパですと排出権取引という手法を専ら用いることとなります。これは、どういうことかといいますと、二酸化炭素を出す量をそれぞれに事業所単位に割り振りまして、目標が達成できないところは、既に目標を達成したところから排出権という権利を買いなさいという仕組みです。ですから、CO₂を抑制したところにはそういう御褒美が色々出るということではありますが、これは日本ではほとんど人気がない考え方です。中には、これをもって日本人にはアイデアがないんだとか、金融商品の企画力がないんだと言う人がいますけれども、金融商品の企画力はほかで発揮されるべきでありまして、排出権取引の背景には、やはり新規参入があまり想定されていないとか、どんどん投資が起きるということは想定されていない社会が背景にある。要するに、既存事業所に排出枠という天井を課せば何とかなるだろうという手法ですが、これは御存じのように、雇用問題とか他の問題を引き起こすこととなりますので、日本では排出権取引というのは、多分根付かないのではないかと思えます。

これに対して、他方で同じ命題を、美しいものを実現するという目標を別の形で実現しようとしているのが現在の日本の工業の達成願望だと思えます。例えば、ハイブリッドエンジンが10年前に導入されましたけれども、これは異なった遺伝子の組み合わせみたいな、ハイブリッドというのはそういうことなんでしょうが、エンジンと電気。エンジンもガソリンだけではなくて、将来はバイオフィューエルズが使えるという展望に立てば、一方、電気の方は太陽光もありましょうし、原子力もあるでしょうが、それで使えと。なぜハイブリッドエンジンが日本で

実用化されて、安定的に普通に使われているか。科学者の貢献も非常に大きいのですが、匠のわざといいましょうか、工業分野において蓄積された力量がこれを実現させたことは明らかです。

そういう意味では、技術の標準化を通じて、現場で頑張っている人たちの持っている姿勢の良さといいましょうか、貢献というものが現実にビヨンドカーボン（超炭素）というのでしょうか、炭酸ガスを排出しなくても輸送手段を手にすることができるという一つの可能性を示しています。

そういう意味では、ハイブリッドエンジンでは、調和のとれた、制御の効いた仕組みを作り出すに当たって、一人ひとりの匠のわざが大きな貢献をしているわけです。この延長線上に地図といいましょうか、目標に対しての時間軸を持つ地図を作成できるのではないかと考えています。そうしたことが実現する過程で、当然価値連鎖が起きます。そのあたりに日本の特徴が発揮できるのではないかと考えていまして、ぜひそういう議論を、安倍総理にも展開していただけるようないろいろな材料を整えることが重要ではないかと思えます。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

では、中西さん、お願いします。

中西輝政氏 それでは、手短に私の考えを申し述べたいと思います。

「美しい日本」とは何かということを私なりに考えてみますと、美しいというのは、日本にとっては精神性ということなんだろうと思うんです。美しさというのは、いろいろ考えられるわけですけども、ちょっと概念的な話になりますが、やはり「かたち」と「言葉」と「こころ」ということになります。国としての日本の美しさを考えるときに、やはりこういう範疇で考えるということが私の一つの方向性です。

もう一つは、世に真善美と申しますが、やはり真善と両立、鼎立してこそ美なんだろうと思うんですね。ですから、真善、つまり普遍的な人間としてのあり方、普遍性というか普遍的価値というものとどう結びついているかということ、やはり日本としての美しさということでは常に考えていく、そういうスタンスをとりたいと思うんです。

そこで、具体的な話になりますが、私の関心がございます分野では、「国際的な振る舞いにおける美しさ」とは何だろう、ということを試みに考えてみるんですけども、先ほど総理、官房長官のお話にも出ておりましたように、「これから築いていく日本の美しさ」というものもやはり考えていかなければならないわけです。その場合、国際社会では、明確な自己主張こそが美しい国の条件だと思います。他の点では、日本は従来から国際的な振る舞いにおいても、

独特の美しさを発揮してきたと思いますけれども、普遍性に基づく自己主張とか、あるいは人類的な見地と日本という個別性をどう説得力を持って融合していくのかという、言葉における美しさという問題が対外的には非常に重要になってくると思うんです。

時間の関係で、さらに具体的な審議に入らせていただきますが、やはりこの試みの一つに注目して参加させていただいたのは、一つの国民運動として何か日本の美しさを考えるような試みができないかということでした。そこで2つほど、こういう取り組みというのが大事なのではないかということをご提案したいと思います。

1つは、やはり精神性、心とか言葉というのは、国とか公共の立場から何かを国民に発信していくという形にはなかなか得ないんですね。ですから、民間というものが大きな役割を果たさなければいけない。

そこで、一つ重要な柱は、各地域から日本らしさを考える、美しさを考えるということが大切で、特に今いろいろな地域から、ここに今日の企画案ということで、美しい国コンクールというような案が出されていますけれども、これを積極的に進めていくお、いろいろな地域から出てくる「日本らしさ」というものの共通点みたいなのが非常に見えやすくなってくるし、他方、地域間のさまざまな試み、それは同時に地域間の良い意味での競合、競争といえますか、エミュレーションを引き起こしていくということも、新しい美しさを発見することの一つの重要な手がかりになるんじゃないかと思っています。

もう一つは、国民運動としては、やはり子どもから、といえますか、若い世代、世代間対話というのは、日本の美しさというものを考え、築き合って、お互いに教え合っていくという、そういうのがこの試みとして重要なのではないかと思います。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

それでは、引き続きお願いします。

弘兼憲史氏 時間がオーバーしていますので、私は今日言いたいことはここで差し控えまして、元会社の宣伝マン、企画マンだったもので、極めて具体的な提案から入りたいと思います。

ともすれば、この会議というのは抽象的な論議に終始するという危険性がありますので、もっと具体的に何をしたらいいかというのをまず提案します。

「美しい国づくり」を推進させるためには、国民に参加させて関心を喚起するということが大切だろうと思います。まず応募、コンクールというのを考えまして、日本を漢字一字で表すと何であろうかという応募をしたらいかがでしょうか。

いろいろな漢字が考えられます。例えば、平和の「和」とか、平穩の「穩」とか、「雅」と

という言葉がある。あるいは義理人情の「義」、あるいは創造の「創」であり、あるいは敬うの「敬」という言葉。私自身としては、恐らくこれは日本以外にあまりないんですけども、「謙譲の美德」というメンタリティーです。先ほどどなたかおっしゃいましたけれども、譲り合う気持ちのこの「譲」というのは、私の中で日本を非常によく表している漢字だと思います。この漢字一字で日本の特徴を発信するという事は、折しも今、世界は日本の漢字ブームでありますし、大変アピールになるのではないかと思います。

ということで、とりあえず漢字一字で日本を表すという応募をしたらいかがでしょうかという提案をしてみたいと思います。

平山郁夫座長 ありがとうございます。

それでは、松永さん、お願いします。

松永真理氏 今のご意見は面白いと思います。先ほども世耕補佐官がおっしゃっていたように、日本は携帯ですぐ写真が撮れて送れますので、これは毎日送ってもらうのも一興だと思いました。

私は、携帯電話を開発しているときに分かったことは、世界最先端の技術の中に日本の伝統的な老舗企業の、それこそ創業300年の銅箔の技術が使われているといった、その最先端と老舗企業との技術がかみ合わさったところが本当に素晴らしいと思いました。そういう意味で、融合ということは本当に日本が得意とするところですし、よく知られてはいないけれども、ものづくりの優れた「現場力」をしっかりと掘り起こしていければと思いました。

あともう一つ、それから日本は「世界最小、最軽量」を開発する優れた特質をもっています。これは日本人の手先が器用というレベルを超えて、小さな庭に宇宙を感じるといった精神性があるからこそ究められる技術なのだと思います。よって、私はこのプロジェクトで、そういった精神性の地下水脈のようなものを見つけられればと思っています。

最後に、来年、平成20年というのが「源氏物語」が誕生して一千年になります。私はいろいろな方に申し上げているのですが、京都では一部動きがありますが、まだ日本全体の動きになっていないように感じています。そこで、千年も前にこれだけの文学作品を生んだ国として、世界にも発信していくことが重要だと思います。現在にも受け継がれている日本の美を、再発見できるまたとない機会にできればと思っています。

以上です。

平山郁夫座長 これで一応全メンバーの大変貴重な御意見を伺いました。

いろいろ御自分の専門の専攻した立場から、本当に一つずつ貴重な素晴らしい御意見をいた

だきましたが、どれも皆そうであるということだと言えます。

先ほど、真善美をお出しになりましたけれども、例えば飛行機あるいは船、合目的に性能が進むほど美を發揮しますね。非常に美しい形、力学が生れてきます。これは、合理性と同時に無駄がない美しさを出す。今度は、前後してしまいましたが、これを使う方の倫理観がないと、これは凶器になったり、人を大変傷つけます。ですから、こういうバランスのいろいろな面が、日本人は自然から美しい、本当に桜が咲いたり、青葉になったり、紅葉したり、枯れ木になって雪が降ったりというこの日本列島にまたがる春夏秋冬の大変豊かな環境から、非常に国際的にこうした叙情性だとか表現が日本人の独特の、言葉も言われましたけれども、言葉の表現でも敬語から、いろいろなニュアンスがあります。

これは、私も国際交流でいろいろな問題を二国間あるいは三国間で翻訳しますけれども、中国もヨーロッパも非常に言葉に対して合理的です。主語の次にすぐ動詞がある。動詞の次に目的語で、何々をするという、交換文書を交わすときに、すぐ結論が出るんですけども、我々は、具合が悪いときには動詞を出さないんですね。良い方向に持っていきますというので、いいのか悪いのかという論点になって、ではやめますかと。やめてくれては困るので、今はできないけれども努力しますというほかしの表現でいくと、どう処理するんだとか、おたくでいい方にやりなさいというのでやって、だんだん良くなって、時間をかければ合意するという、これも文化の大変な相違です。同じ漢字圏でありながら、これは相当にいろいろなことが、合理主義、構成が違うなということをししばしば感じます。

しかし、日本人はそういうニュアンスの中に、今言った「源氏物語」の人間性も、千年昔にああした文学を見、和歌を見、素晴らしい文化を持っております。そういうものが今消えつつあったり、自覚がなかったり、これも教育の問題だと思うんですが、やはり自然あるいはそれにまつわって生れてきた文化、この文化の中にもさまざまなジャンルがあります。そういったことを今日お集まりいただいた先生方に、自分はこういうふうに見えるんだという、さっき地域でやればいいのかとか、いろいろ良いアイデアが出ていましたけれども、会を重ねれば、さっき岡田さんが言った自信がない、これをよく言えば謙虚であるという、これも引きの文化というのでしょうか、ぶつかってもすぐ日本人は謝りますけれども、謝った方が負けだというので頑張る国もありますね。絶対に非を認めない、おたくが悪いんだというので。これも文化の相違ですから、ひとつこれをどういうふうにとめて、国民運動へ分かりやすく皆を巻き込んで、やはりこれは家庭のしつけや初等教育やいろいろな面で、日本人の感性がどこから生れるんだと。これは、さっき言ったCO₂も増やさないとか、美しい自然を残す

んだと。しかし、開発はしなければいけないという非常に矛盾に満ちた問題ですけれども、クリアする。

そういう点で、私は日本人の心というのは、伊勢神宮は20年ごとに農耕文化の象徴であることで、この次63回目になりますけれども、式年遷宮を62回やっているわけですね。天平時代から延々と、戦争があろうと、負けようと。この一番大事なのは形です。精神、心、農耕稲作という心、そして驚くべきことは同じデザインで、同じ工法なんですね。槍鉋で、電気鋸だとかトンカチを使わないで一本槍で、世代を。それで、日本の自然と共生する心を忘れてはいけませんよと。

一方、近くの法隆寺では、ほとんど同じ白鳳時代の1300年昔につくられた外国から来たオリジナルな文化を徹底的に守っているわけです。解体修理しても、腐った部分だけを除去して、手当しながら、文化を継続して、遺跡ではなしに生かして、継続して今日まである。精神的な面と物心ともにダブルスタンダードみたいですが、そういう日本人の価値観というのがありますね。

ですから、私も文化財保護でいろいろ国際的にやりますけれども、そういう法隆寺式保存法がヨーロッパでは認められなかったんです。これを京都会議で徹底的に論争して、なるほどこういう保存の方法もあるというのを認めてもらって、初めて法隆寺や奈良のお寺や京都のお寺は世界文化遺産になったわけですね。

ですから、いろいろな点で日本の「美しい国づくり」を国民運動にして自覚をしてもらえば、子どもたちのいじめだとか、あるいは聞くに耐えない、見るに耐えないような、若い人がお年寄りの年金で食べているのを詐欺したり、あるいはオレオレ詐欺をやったり、金属類が高価になったということで、お宮の鍵まで盗んだり、まさしく日本人の倫理観は地に落ちたような、このままでいいのかと。これはわずかな人間ですけれども、大多数は心配していると思うんです。

それだけに、この「美しい国づくり」、大変興味を持って、期待とどうなるんだろうかという両方混合して皆さん待っていると思うんです。ぜひ、すぐには役に立たないにしても、これを中教審だとか教育再生の方へ流していきながら、縦割りではなく横の方で連絡しながら、日本人のいい点を残していく。これはさまざまなジャンルがありますので、井上さんの京舞なんかもその一つですし、この間、パリで歌舞伎が演奏されて、拍手喝采を得たり、文楽にしても、能楽にしても、だんだん認められてきております。

ぜひ、そういう意味でそれぞれの立場で、岡田さんが言われた原則は何だという点もありま

すよね。細かい付随した現象でさまざまな文化も生れてきますけれども、もう一遍、日本は何ぞやということを謙虚に考えると、これは相対した政治経済、科学、いろいろな分野で異文化と付き合ったときに、非常に生きてくるというんでしょうか。それで、お互いに交流できるということが言えると思います。それには長い時間かかりますから、ひとつそれを短期的でやろうというわけですので、ぜひ先生方にはひとつ御協力をいただいて、いい答申を出したいと思っていますので、よろしくお願いします。

時間を超過して申しわけないんですが、今後の予定を室長からお願いしたいと思っています。

三宅「美しい国づくり」推進室長 今日、御意見の中で、企画に当たってどのようなものが良いといったようなことも御提言をたくさんいただきました。世耕補佐官の方から説明申しましたものも含めまして、本日いただきました御意見を反映させていただきながら進めさせていただければと思っております。

今後の予定ですがございますが、第2回の会合は、本日の議論も踏まえまして5月の下旬を目途に、公募といったような、あるいは企画につきましてその後の報告、またそれに続くような企画について御相談をさせていただくということで、日程について調整をさせていただきたいと思っています。

具体的な調整は後日、私どもの方から個別にまた御相談をさせていただきたいと思っています。

平山郁夫座長 それでは、今日いただいたいろいろな貴重な御意見を事務局の方でひとつ練り上げて、ペーパーにまとめていただいて、またそれを討議するというのを重ねてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

長谷川内閣広報官 1点、事務的なお話でまことに申しわけございませんけれども、今日の冒頭、座長がおっしゃいましたとおり、各メンバーの御討議に入ってから様子というのは、それ自体公表しておりませんので、後ほど世耕補佐官及び事務局の方からプレス関係者には、大変問い合わせ、注目が高いものですから、私どもの方でブリーフィングをさせてもらうということでもよろしゅうございますでしょうか。

平山郁夫座長 まだ共有の意見というのが、今日は皆それぞれの立場で御意見を伺いましたけれども、結論が出ておりませんので、事務局の方で取りまとめてブリーフィングしていただければと思います。それでは、どうもありがとうございました。よろしくどうぞ。

午後 6時24分 閉会